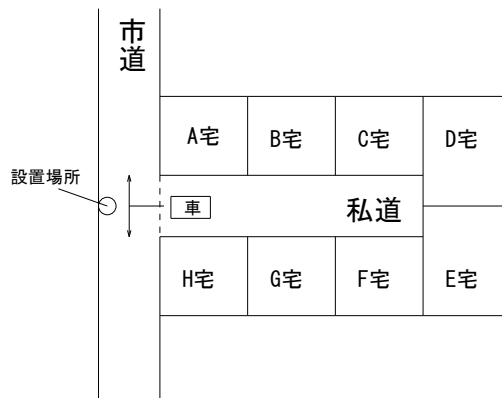
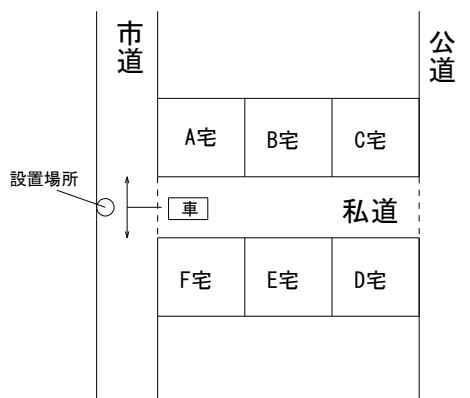


□参考図例

・設置の対象となる私道の例

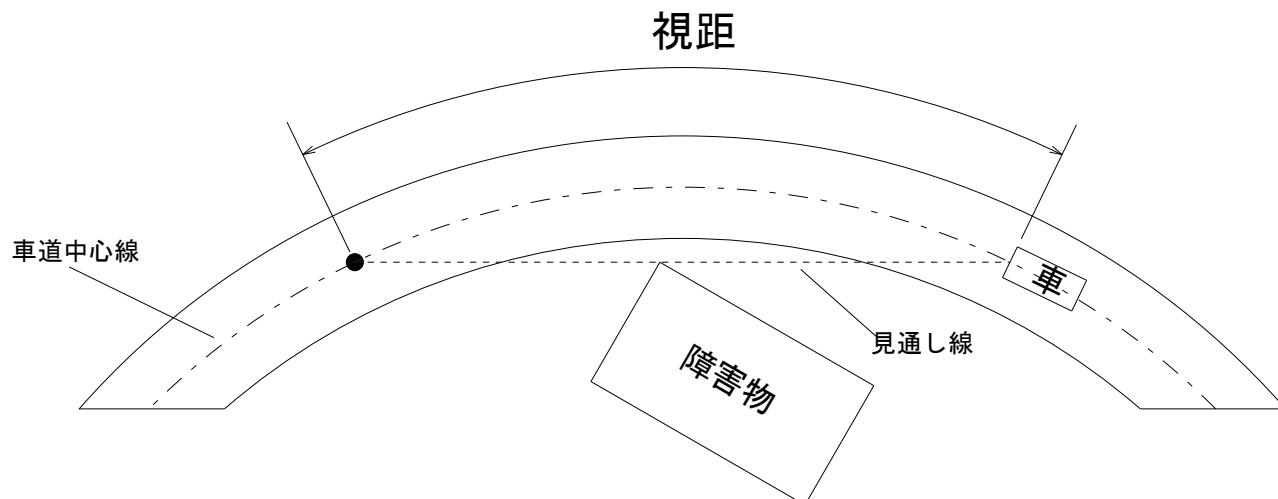
①公道から海老名市道へ通り抜けができる私道
(海老名市道との交差点部)

②車両の利用がある世帯が 8 世帯以上かつ車両
台数が 8 台以上

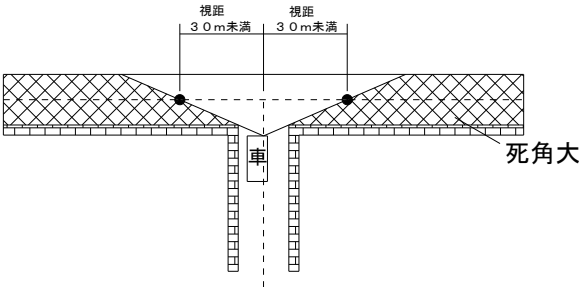
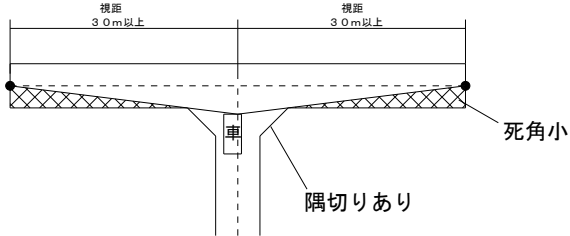
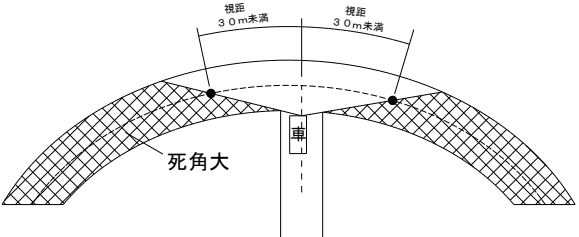
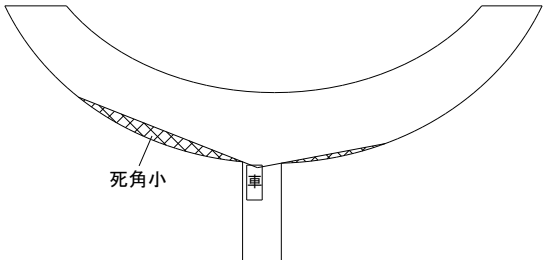
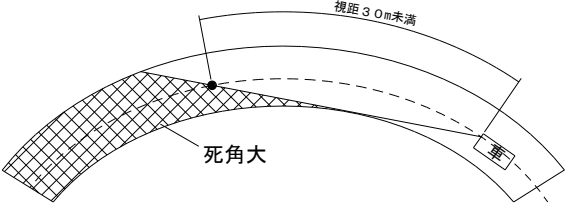
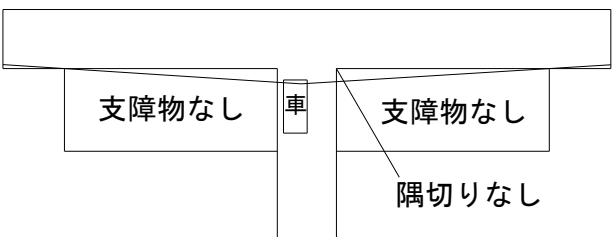
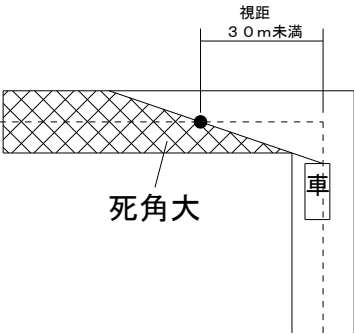


・「視距」とは

車線（車線を有しない道路にあっては、車道。以下この号において同じ。）の中心線上 1.2メートルの高さから当該車線の中心線上にある高さ 10センチメートルの物の頂点を見通すことができる距離を当該車線の中心線に沿って測った長さをいう。（道路構造令第 2 条第 1 項第 2 3 号）



・道路反射鏡設置の判断例

道路反射鏡を設置することができる例 ※見通しが悪いと判断する場合	道路反射鏡を設置しない例 ※見通しが良いと判断する場合
民地内の塀などにより視距が十分でない 	隅切りがあり死角が小さい 
主道路の形状により死角が大きい 	主道路の形状により死角が小さい 
道路が湾曲しており視距が十分でない 	隅切りはないが、交差点周辺の土地利用形態により視距が十分 
道路が屈曲しており視距が十分でない 	主道路に歩道が設置されており視距が十分 